



旅する公務員

第21弾

埼玉県横瀬町

「旅する公務員」の目的

◆「A面」的目的

磐梯町役場の情報システムを活用したテレワーク環境を活かし、磐梯町と交流のある自治体に職員を派遣。派遣先自治体で自町の業務をテレワークで実践しながら、派遣先の業務や職場の雰囲気について磐梯町との共通点や相違点を体験しながら学習する。



◆「B面」的目的

自治体間の交流を推進し
互いの先進事例を共有することにより
地域課題の解決を図る。



◆「ボーナス 트랙」的目的

先方自治体の職員の方ばかりではなく
関係者や団体の方々
により住民の方々と
昼夜分かたず楽しく交流し お友達になる。

「旅する公務員」 第21弾の概要

旅した期間 2026年8月24日（月）～2026年8月26日（水）

旅した職員	行政経営課	主査	金子 宏一	
	行政経営課	地域活性化起業人		深谷 大一郎
	行政経営課	地域おこし協力隊		塚田 滉大

旅した場所 埼玉県 横瀬町

旅の概要

埼玉県西部に位置する横瀬町は、人口約7千人の町でありながら、官民連携や関係人口の創出など、全国的に注目される取り組みを進めている。

特に横瀬町では、

- 官民連携プラットフォーム「よこらぼ」
- 関係人口創出
- 地域課題解決
- 挑戦を支援するまちづくり

など積極的に推進しており、人口減少社会における新たな自治体経営のモデルとして全国から視察を受けている。

今回の旅は、主に横瀬町の官民連携の取り組みについて学び、その知見を磐梯町の官民連携の推進に生かすことを目的とした。

旅のスケジュール

月日	AM	PM	宿泊
8/24 (月)	移動 (7:50) (JR-西武鉄道)	横瀬町到着 13:00-14:00 担当課職員との挨拶 14:00-16:00 舎場シンワ-アスタバ- 旧芦ヶ久保小学校-寺坂棚田- 花咲山公園-横瀬ジビエ製造場- まるっと横瀬体験施設 16:00-17:00 井上副町長との意見交換 18:00-19:00 JICA海外協力隊グローバルプログラム 最終報告会 (会場:エリア898) 19:00 懇親会	ホテルルートインGrand秩父
8/25 (火)	8:30 横瀬町役場 テレワーク 9:00 横瀬町DX取り組み紹介 (邊見主任) 10:00 横瀬町役場 テレワーク 11:00 横瀬町よこらば取り組み紹介 (田端将伸氏) ※元横瀬町役場職員で、よこらば立ち上げメンバー	13:00 横瀬町役場 テレワーク 13:30 よこらば審査会視察 15:30 よこらば連携推進員会議視察	ホテルルートインGrand秩父
8/26 (水)	8:30 横瀬町役場 テレワーク 10:00 Area898・899-Lab横瀬-NAZELAB- キッチンENgaWA 11:30 送別セレモニー	磐梯町到着 (18:30) (西武鉄道-JR)	

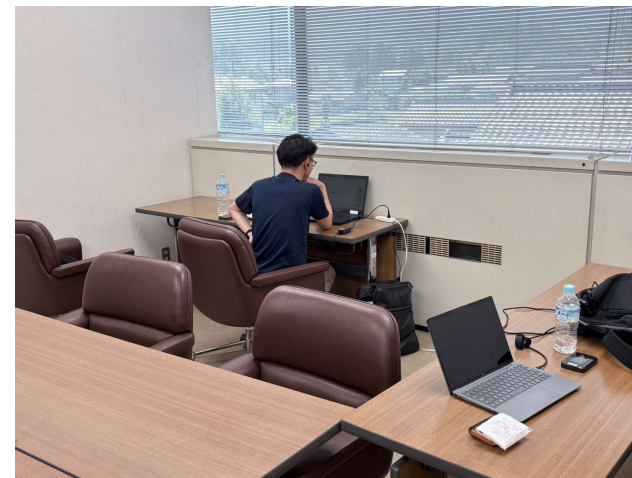
旅する「A面」

◆テレワークは問題なく実施可能 しかし、課題もあり

- MS365を利用できるクラウド環境により、OneDrive、Teams、Outlook等を使用した業務は問題なく実施出来た。
- 新幹線の移動時間もモバイルルーターを使用して業務を行えたが、添付ファイルのダウンロードやCopilotの使用等を重ねると使用可能容量の上限に達するのではないかと不安だった。
- パソコン、モバイルルーター共に電源の確保が難しい場合は、モバイルバッテリーの必要性も感じた。
- 外出先での通話は個人スマホでの対応となり、電話番号の外部漏洩や通話料発生の可能性が懸念されるため、公用スマホの導入が望ましい。



エリア898
無料Wi-Fiやコンセントがあり
個人、イベント等で利用可能



庁舎会議室でテレワーク実施

旅する「B面」①

○よこらぼ -横瀬町とコラボする研究所-



横瀬町が2016年から運営する官民連携プラットフォーム。
企業、大学、団体、個人等から地域課題解決や新たな価値創出につながる提案を募集し、実証実験や事業化に向けた伴走支援を行っている。
提案者の「やってみたい」という想いを起点としている点が特徴であり、行政が地域課題解決のためのフィールドを提供する仕組み。

「失敗してもいい」というマインド

最も印象的だったのは「失敗してもいいから、まずはやってみる」というマインドで、挑戦する人を応援する文化を感じることができた。
また、行政がすべてを実施するのではなく、挑戦する企業や個人の伴走者として関わり、既存の人材や場所、ネットワークを活用することで、多様なチャレンジが継続的に生まれている環境が形成されていた。

出典：よこらぼ -横瀬町とコラボする研究所-

旅する「B面」②

○田端将伸氏へのヒアリング

元横瀬町職員で、よこらぼの立ち上げ・運営に携わってきた田端将伸氏。

ヒアリングでは、町にとってのメリットとリスクを把握する重要性や、提案者が挑戦したくなる雰囲気づくりなど、貴重なアドバイスをいただいた。

※田端将伸氏プロフィール

さまざまなプロジェクトを誘致し、チャレンジできる仕組みを次々と仕掛ける。「日本一チャレンジを応援する町」を推進し、チャレンジ支援を展開してきた。交流拠点「Area898」の整備、株式会社ENgaWAを立ち上げ、地域資源を活用した新たな経済循環づくりなどに深く関わっている。

現在の肩書は、「フリーアルバイター／横瀬町非公式地域コーディネーター／地域推進アドバイザー」



田端将伸氏と一緒に

出典：田端将伸氏へのヒアリング、Public Platform掲載プロフィール

旅する「B面」③

○「よこらぼ」審査会・連携推進員会議への同席

同席させていただいた審査会では、2件の案件が提示され、熱意のこもったプレゼンテーションと、冷静かつ客観的な審査が行われる中で、実際の流れや雰囲気を感じることができた。審査員は、町に関わる多様な方々14名で構成されていた。

その後、各課を横断するメンバーで構成されている連携推進員を対象に行われた会議では、原課との協力体制につながる情報共有や認識合わせが行われており、庁内連携を重視する姿勢がうかがえた。



連携推進員会議の様子

旅する「B面」④

○Google Workspaceを導入

地域活性化起業人をCDO補佐官に配置し取り組みを進めているとのこと。
昨年7月に、使い勝手の良さや日常から使用している職員が多いことから、Google Workspaceを導入し、メール、カレンダー、生成AI機能等を活用している。
磐梯町と同様にインターネット環境に業務を寄せていることもあり、GWS導入において大きな障壁はなかった。

○BPRの取り組み

どの業務にどの程度の時間がかかっているか各課へのヒアリング、分析を行っていた。使用しているツールはCDO補佐官と開発したものであり、分析後は、数業務程度をピックアップし改善に向けて取り組んでいくとのことだった。

旅する「B面」⑤

○横瀬ジビエ製造場 | カリラボ

地元猟友会が捕獲したシカを中心に買い取り、食肉として有効活用している。地域おこし協力隊の方が中心となって管理・運営していた。現地で鹿肉100%のソーセージを実食できた。



鹿肉100%ソーセージ

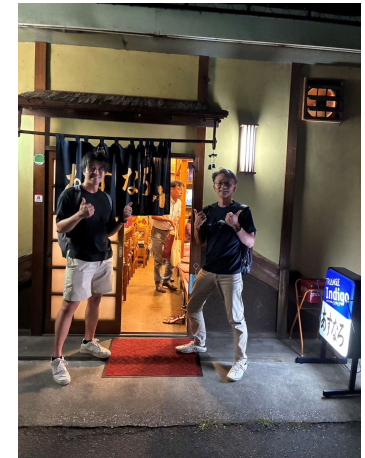
○JICA海外協力隊グローバルプログラム（派遣前型） | JICA海外協力隊

JICA海外派遣協力隊の派遣予定者が、国内の地域活性化等の取り組みに参加し、海外での活動に必要な実践的な知識と経験を習得するプログラムで、今回報告した2名は、今後それぞれの任国へ派遣される予定である。また、これまでに派遣されていた参加者が帰国することから、「株式会社ENgaWA」では、町と連携し、帰国後も横瀬町と関わり続けられる受け皿づくりに取り組んでいた。

出典：株式会社カリラボ公式サイト、JICA海外協力隊公式サイト

「ボーナストラック」

- 昼は駅前食堂を訪れ、地元野菜を使った夏野菜カレーや「たなだあいす」をいただいた。
「たなだあいす」は、売上げの一部として1個につき10円を棚田保全に寄付している。
- 3日間連続で訪れたことで、スタッフの皆さんに顔を覚えていただけた。（武甲山デザインのTシャツも手に入れた）
- 夜は横瀬町役場、JICAグローバルプログラム関係者、お隣の秩父市役所の方とも懇親し、貴重な情報交換を行うことができた。



「旅の総括」

「失敗してもいいから、まずはやってみる」

横瀬町の強み

町が挑戦する人の伴走者となり、人・場所・組織をつないでいる。よこらぼ、Area898、ジビエ活用、JICAグローバルプログラムなど、地域内外の人材や資源から新たな価値を生み出す仕組みが実践されていた。

磐梯町に活かす

磐梯町でも、小さく始め、実践し、改善する姿勢を大切にしたい。まずは、

- 旅する公務員で得た学びや人脈を共有する
- 職員および町内外の「やってみたい」を受け止める
- 小さく試し、振り返りながら改善する

という取り組みからスタートしたいと考えている。

所感

重要なのは、人の熱意と挑戦を歓迎する雰囲気であると感じた。横瀬町で学んだ姿勢を生かし、挑戦する人を応援し、ともに行動できる磐梯町を目指したい。



寺坂棚田と武甲山（夏）

以上

「旅する公務員」第21弾
埼玉県横瀬町

報告を終わります。

